

平成7年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会
平成8年3月

例 言

1. 本書は、丸亀市教育委員会が平成7年度国庫補助事業として実施した、丸亀市内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 今年度の発掘調査は、丸亀市金倉町で実施した。
3. 本書で使用した遺構の略号は、原則として下記のとおりである。
SD（溝） SK（土こう） SP（ピット・柱穴）
4. 発掘調査及び本書の執筆編集は、丸亀市教育委員会生涯学習部文化課主事東信男が担当した。
5. 遺構の実測は、北山多佳子と橘明夫が担当した。
6. 出土遺物の実測は、北山多佳子が担当した。
7. 図面のトレースは、北山多佳子と宮武宏行が担当した。
8. 発掘調査にあたっては、丸亀市金倉町地元有志の方々の協力を得た。
9. 本書の執筆にあたっては、宮武進氏、片桐孝浩氏、笹川龍一氏、山本英之氏、山本敏裕氏、今井和彦氏、大島和則氏の助言・協力を得たので謝意を表する。

目 次

1. はじめに	1
2. 調査にいたる経緯と調査の過程	1
3. 調査概要	1
(1) 試掘調査	1
(2) 遺 構	3
(3) 遺 物	5
4. ま と め	8

図 版

1. 調査地平面図	2
2. 1区 平面図・溝状遺構土層断面図（SD01・02・03） 3区 平面図	4
3. 2区 平面図	6
4. 土器実測図 図面1～14	9
図面15～28	10
5. 写真（遺構）1～9	12～13
（遺物）1～29	13～16

1. はじめに

平成4年度から国庫及び県費補助金により、丸亀市内に所在する遺跡の確認調査をしている。本年度は、昭和51・56年度の調査により確認された丸亀市金倉町中の池地区に所在する「中の池遺跡」に隣接する丸亀市総合運動公園の建設事業が着手されることから、文化財保護法98条の2の発掘届出書を提出して、埋蔵文化財保護を目的とした遺跡の内容及び範囲の確認のため、試掘調査を実施した。

2. 調査にいたる経緯と調査の過程

「中の池遺跡」は、丸亀平野中央部北寄りの金倉川右岸に所在する。現状は田園地帯であるが、早くから耕作土中に弥生土器片やサヌカイト片が多数採取されることが知られていた。昭和51・56年度に、江戸時代に築造された「平池」の北側で、丸亀市教育委員会によって発掘調査がなされた。調査の結果、丸亀市金倉町1010～1012番地で弥生時代前期の遺跡が確認されている。

平成6・7年度に「平池」の南側で、県立陸上競技場建設工事に伴う発掘調査が、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターによってなされた。平成6年度調査では、縄文時代後半～晩期中の土器、石器、木製品、また弥生時代前期末～後半及び中世の遺構などを検出している。特に、当地では弥生時代中期～後期の遺構の存在が知られていなかったことから、弥生時代中期後半の土器棺墓や弥生時代後期の周溝墓状遺構が検出されたことは、遺跡の歴史の変遷を考えるうえで貴重な成果といえる。

丸亀市教育委員会では、平成6年度に「平池」東側で発掘調査をした。遺構は、弥生時代の溝状遺構を検出している。平成7年度調査は、「平池」西側で試掘調査と発掘調査をしている。遺構は、中世の土こう・ピットや弥生後期の溝状遺構、弥生前期の溝状遺構及び縄文晩期～弥生時代前期の遺物を包含する河道を検出した。以上のことから、「平池」周辺には遺跡が存在することが明らかとなった。

なかでも「中の池遺跡」は、弥生時代前期の遺物を多量に包含する環濠と考えらる幅4m～6.5mの3本の大きな溝状遺構が検出されている。特に、中央溝は配石遺構が検出され、内溝からは内側に階段状遺構と棚列跡が検出されている。検出した遺構や出土遺物量も「平池」周辺部では群を抜いている。

近年、県立陸上競技場の建設に伴う丸亀市総合運動公園建設事業が展開され、「平池」周辺部で公園整備事業に伴う開発行為が予定されており、埋蔵文化財の保護措置をとる必要があることから、今年度の調査は「中の池遺跡」の範囲・内容を確認することを目的に、前回調査地の西側で試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成7年8月24日から平成7年9月20日までの期間で実施し、発掘面積は約240m²である。発掘調査は、トレンチを3か所を設定して1～3区とし、必要に応じて調査範囲を拡張した。1区は北端の東西トレンチ、2区は南端の南北トレンチ、3区は1区と2区の間で東西トレンチを設定した。

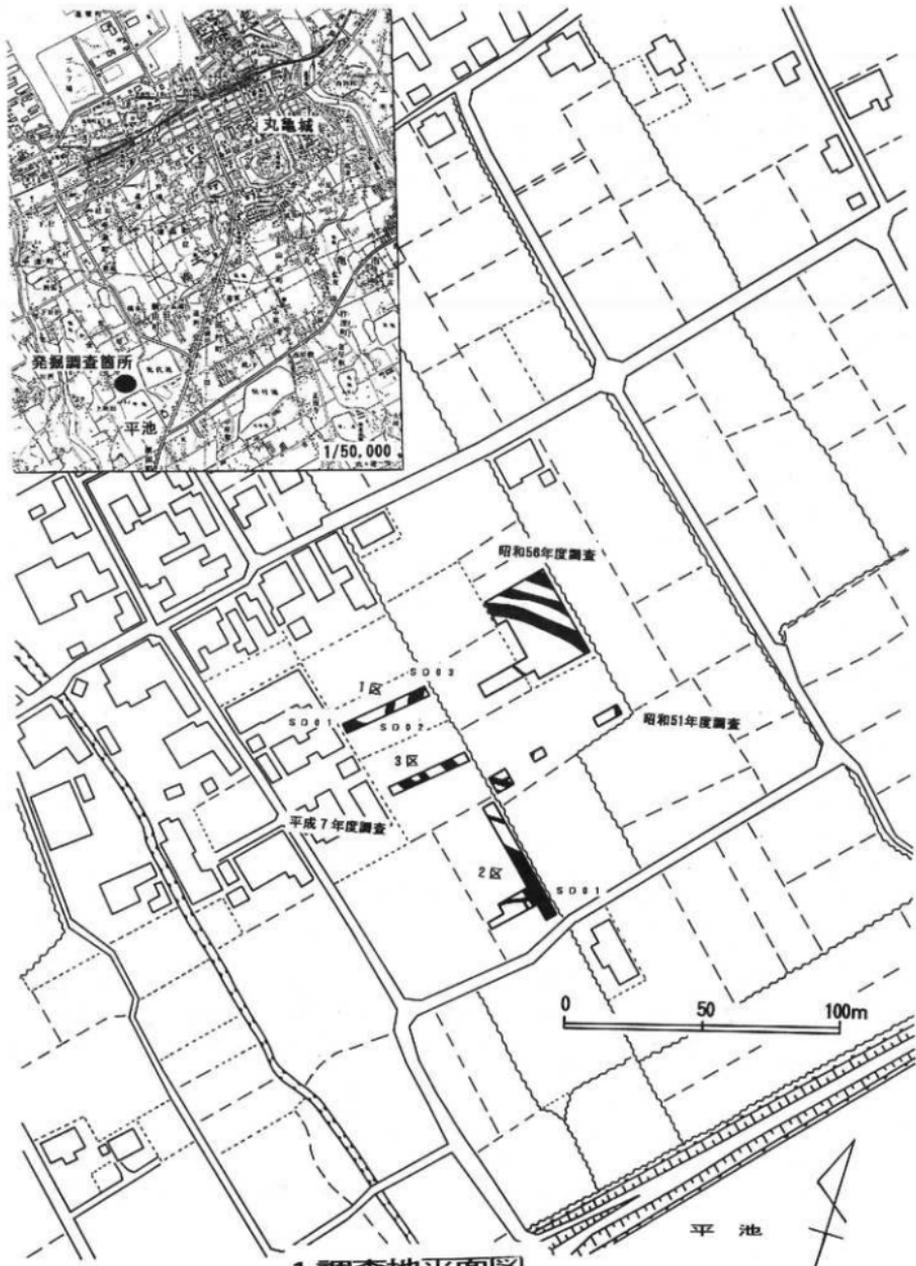
3. 調査概要

(1) 試掘調査

昭和56年度調査により「中の池遺跡」の環濠と推定される平行に走る3本の溝状遺構を検出したので、今年度調査は、「中の池遺跡」の西側と南側に関連する遺構を確認できるようなトレンチを設定した。

1区は、昭和56年度に発掘調査した西側で東西に長いトレンチを設定し、調査面積は47m²(33.4m×1.4m)で、3本の溝状遺構を検出し、西側溝をSD01、中央溝をSD02、東側溝をSD03として、東溝は中央部で畝状となり区画されることから、西側をSD03W、東側をSD03Eとした。

2区は、環濠の南部を確認するため、南北に長いトレンチを設定し、調査面積は151m²(46m×1.1m)で、



1 調査地平面図

耕作土直下で南北方向に走る溝状遺構を検出した。この溝状遺構の幅を確認するため、T字状に西へ21.3m、南北へ最大幅 7.1m拡張したところ、溝状遺構や土こう・ピットを多数検出した。

3区は1区と2区で検出した遺構の続きを確認するため、1区と同様に東西に長いトレンチを設定した。調査面積42m² (29.7m×1.4m) で、耕作土直下で1区に続く溝状遺構を検出したが、今回は遺構の確認だけに止めた。

1区では、昭和56年度に調査された「中の池遺跡」の環濠と考えられる溝状遺構につながる溝状遺構を検出し、3区では「中の池遺跡」の環濠から外側にあたる箇所遺構が所在することを確認した。

(2) 遺 構

1～3区は、耕作土直下で遺構を検出した。

1 区

昭和63年度調査の西側に設定した。20cm～14cmの耕作土直下で、遺構を検出する。

溝状遺構

①SD01 調査区の西端で検出した。幅5.6m、深さ0.7m前後を測る。埋土は、暗い色調を呈する粘質土層である。埋土状況から静かな埋没がうかがえる。暗い色調を呈する粘質土層は、弥生前期の土器を包含していた。この灰色粘質土層の下層にあたるオリーブ褐色細砂層からは、条痕文を持つ黒色磨研の縄文晩期の土器片が2点出土した。

②SD02 調査区の中央部で検出した。中世の土こう(SK01)が溝の一部を攪乱しているが、幅 4.5m深さ 0.6 m前後を測る。埋土は黄灰色粘質土であるが、中央で一段深くなっている。黄灰色粘質土で、弥生前期の土器を包含していた。

③SD03 調査区の東端で検出した。一部攪乱を受けているが、幅約 7.6mである。底部は明黄褐色粘質土層を削り出して畝状となり中央部で高くなるため、西溝SD03Wと東溝SD03Eに分けた。SD03Wの深さ 0.7 m・SD03Eの深さ 0.8mを測る、SD03Eの東側に小さな窪みがある。埋土は有機分を含んだ暗い色調を呈する粘質土である。SD03Wで、下層の灰色細砂層から縄文晩期の土器が出土した。

その他遺構

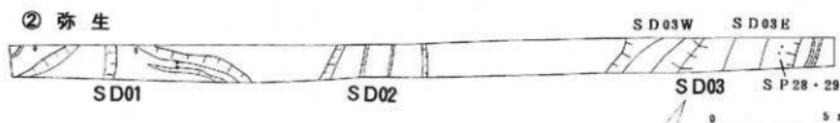
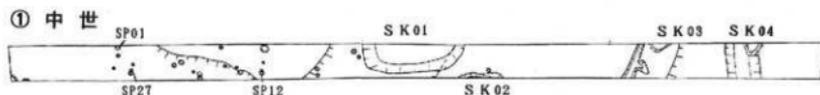
①ピットは29個を検出している。大きさは径10～30cmのものである。SP01・03・13・17・27で14世紀後半以降のもので、SP12・27も中世後半に位置づけられる。埋土から、SP02・04・05・06・07・08・09・10・11・15・20・21・22も同時期のものと推定される。SP28・29についてはSD03Eの溝縁にあり、弥生時代前期の柵列と推定される。

②土こう

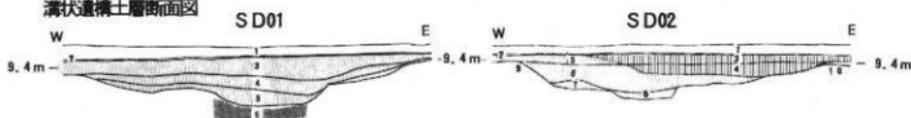
土こうは4個を検出した。

SK01はSD02の上層にある遺構で、大きさは3.28m、深さ23cm、時期不明の亀山焼と14世紀後半～16世

1区平面図

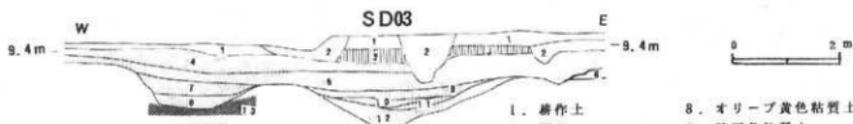


溝状遺構土層断面図



1. 耕作土
2. 床土
3. 浅黄色粘質土
4. 灰白粘質土
5. 灰色粘質土 (マンガ含有)
6. 明黄褐色粘質土

1. 耕作土
2. 床土
3. 灰オリーブ色粘質土
4. 灰オリーブ色粘質土
5. 浅黄色粘質土
6. 黄灰色粘質土
7. 黄灰色粘質土
8. 黄灰色粘質土
9. 灰色粘質土
10. 浅黄色粘質土



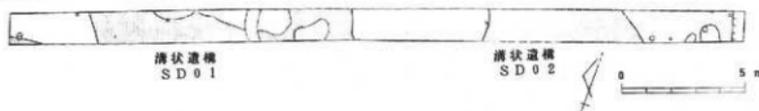
中世包含層

弥生上器包含層

縄文上器包含層

1. 耕作土
2. 攪乱
3. 浅黄色粘質土
4. 浅黄色粘質土
5. 灰色粘質土
6. 明黄色褐色粘質土
7. 浅黄色粘質土
8. オリーブ黄色粘質土
9. 暗灰色粘質土
10. 黒褐色粘質細砂層
11. 黄灰色粘質土
12. 黒褐色粘質土
13. 灰色細砂層

3区平面図



2. 1区 平面図 - 溝状遺構土層断面図

3区 平面図

紀の土師質小皿や摺鉢が出土した。

SK02は時期不明である。

SK03は大きさは126cm、深さ12cmで、14～15世紀前半の摺鉢が出土した。

SK04は大きさは96cm、深さ26cmである。

2 区

溝状遺構

①SD01 幅 2.6m、深さ 0.5mを測り、埋土は有機分を含んだ暗い色調を呈する粘質土である。

②SD02 SD01から西側へ 0.5m離れている。幅 0.6m、深さ 0.4mを測り、埋土は単層で暗い色調を呈する粘質土である。この溝はSD01と平行し、調査区の南端から5mのところでSD01から西側へ延びた溝につながっている。

その他遺構

土こう・ピットについては、今後の調査により時期等を確認する予定である。

3 区

調査区の西側と東側で溝を検出した。表土掘削のみに止めた。

溝状遺構

①SD01 西側の溝で幅10mを測る。上部は、中世の溝及び土こうによる攪乱を受けている。埋土は、弥生時代のものである。

②SD02 東側の溝で幅6mを測る。埋土は、弥生時代のものである。

その他遺構

3区では、土こう4個・ピット10個を検出した。表土掘削による確認行為のため、今後の本調査により内容並びに時期等を確認する予定である。

(3) 遺物

現在整理中のため、比較的復元可能なものや特徴のあるものについて述べる。

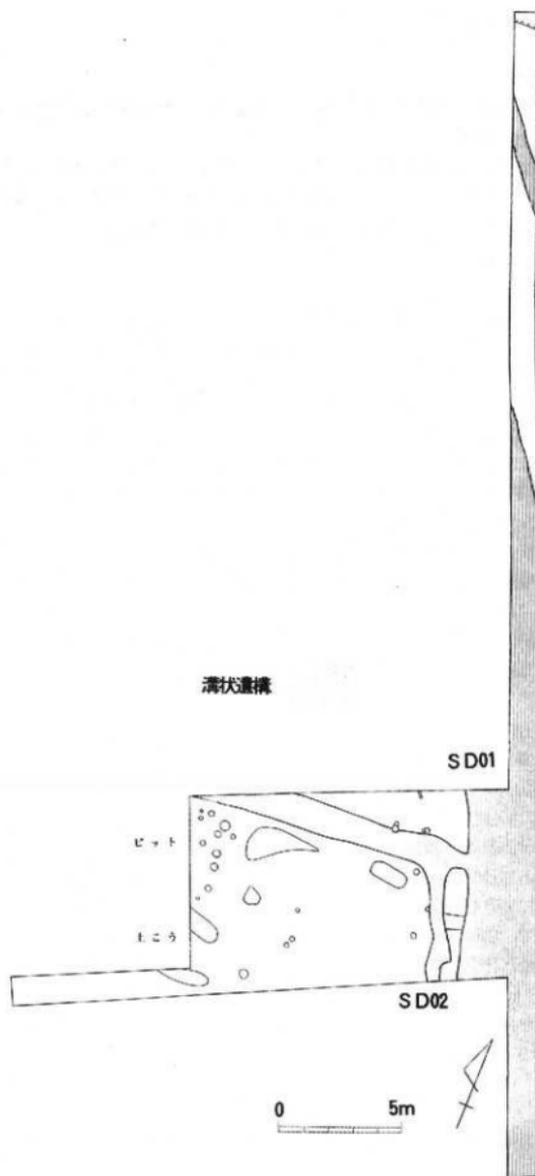
1 区

溝状遺構 すべての溝状遺構の埋土層から、弥生前期の土器片及び石器が出土した。出土した遺物の中で、特徴のあるものを以下に示す。

SD01出土資料

壺1は扁球形の胴部に長い頸が付き、口縁部は大きく開いて外反する広口壺である。頸胴部境は4条の削出突帯を持ち、胴部上面にも5条のへら描き沈線を持つ。口縁端部ナデ、胴部横方向にハケメがある。(図面1-写真①)壺2は口縁端部に一条の沈線を持ち、頸部に一条の深いへら描き沈線を持つ。(図面2-写真②右)壺3は胴部でへら描き沈線の間に竹管文を持つ。(写真②左)

壺4は如意状口縁で端部に刻目を、口縁部直下には3条のへら描き沈線を持つ。(写真③)また、口縁部が



溝状遺構

SD01

ピット

土ごう

SD02

0 5m

3. 2 区平面図

貼付口縁のものも出土している。

S D02出土資料

壺5は口縁部で口縁端部上下に刻目を持つ。(写真④上段右) 壺6は広口壺の口縁部で頸部に沈線を持つ。(図面3-写真④下段右)。

甕7は逆L字状の貼付口縁を持つ。(図面4-写真④上段中央) 甕8(写真④上段左)と甕9(図面5-写真④下段左)は、口縁端部が厚い貼付口縁を持つ。甕10は胴部がやや膨らみ、口縁の外反が強く端部に刻目を持ち、口縁部直下に7条のヘラ描き沈線を施す。(図面6-写真⑤)

S D03W出土資料

壺11は口縁端部が外反し、頸部に削出突帯に沈線を持つ。(図面7-写真⑥右下) 壺12は口縁端部に一条の沈線を持ち、頸部に削出突帯に一条のヘラ描き沈線を持つ。(図面8-写真⑥右中央) 壺13は長頸化した壺で口縁部に穴を持ち、頸部に4条の沈線を持つ。(写真⑦) 壺14は長頸化した壺で頸部に8条の沈線を持つ。(図面9-写真⑧) 壺15は内部に突帯を持つ。(写真⑨上段左) 壺16は耳を持ち、2条の沈線があり、赤色顔料が少し残る。(図面10-写真⑨上段中央) 壺17は口縁に穴を持つ。(写真⑨上段右) 壺18は大きく外反する口縁部を持つ。(写真⑨下段右) 壺19は貼付突帯に刻目を持つ。(写真⑨下段中央) 壺20は貼付突帯に1条の沈線を持つ。(写真⑨下段右) 壺21は山形文を持ち、赤色顔料が残る。(図面-写真⑩) 壺22は内部に突帯を持つ、阿方式土器の破片である。(写真⑪)

甕23は如意状口縁で口縁端部に刻目を持ち、胴部に2条の沈線を持つ。(図面12-写真⑫) 甕24は突帯の貼付部分が口縁端部から少し下がり、口縁端部に刻目を持つ。口縁直下に4条の削出突帯を持つ。(図面13-写真⑬) 甕25(写真⑬上段左)と如意状口縁を持つもの(写真⑬その他)がある。いずれも、口縁直下に数条のヘラ描き沈線を持つ。甕26は如意状口縁を持つ。(写真⑬上段) 甕27は貼付口縁を持つ。(写真⑬下段) 甕28は如意状口縁で端部に刻目を持ち、大きく外反する。(写真⑭)

S D03E出土資料

壺29は頸部に3条の沈線をもつ広口壺である。(図面15-写真⑰左) 壺30は長頸壺である。(図面16-写真⑰右) 壺31は頸部に1条の貼付突帯を持つ。(図面17-写真⑱) 壺32は内側に貼付突帯を持つ、阿方式の土器である。(写真⑱上段左) 壺33は頸胴部境に4条の沈線を持つ。(写真⑱下段右)

甕34は如意状口縁で、端部に刻目を持ち、口縁部の屈曲は強く、大きく外反する。6枚のヘラ描き沈線の各間に竹管文と刻目を交互に持つ。胴部下半には煤が付着している。(図面18-写真⑳) 甕35は如意状口縁で、口縁端部に刻目を持つ。(写真㉑下段中央部) 甕36・37・38は貼付口縁を持ち、多条の沈線を持つ。三角形の貼付口縁で、口縁端部には刻目を持ち、口縁上面は水平で中央部に1条のヘラ描き沈線を、胴部には7条の沈線を持つ。(図面19写真㉑上段中央と右・下段左) 甕39は突帯の貼付部分が口縁端部から少し下がっている。(写真㉑上段右端) 甕40は貼付口縁で口縁端部に刻目を持ち、胴部に4条の沈線を持つ。(図面20-写真㉑左端) 甕41は突帯の貼付部分が口縁端部から少し下がり、口縁端部に刻目を持ち、口縁直下の胴部に10条の沈線を持つ。(図面21-写真㉒中段左端)

(縄文土器)

S D01とS D03Wの下層には河道が流れ、細砂層から黒色磨研の縄文晩期の浅鉢の口縁と破片が出土して

いる。鉢42は、SD03Wの下層から出土した。(図面14-写真㉔)

2 区

SD01出土資料

壺43は小型の壺で、頸部に3条の沈線を持つ。(図面22-写真㉑) 壺44は頸部に沈線を持つ。(図面23-写真㉒右)

甕45は如意状口縁で口縁端部に刻目を持ち、胴部に4条の沈線を持つ。(図面24-写真㉓左) 甕46は如意状口縁を持つ。(図面25-写真㉔上) 甕47は逆L字の貼付口縁をもつ。(図面26-写真㉕下)

鉢48は口縁が外反する。(図面27-写真㉖の右下)

その他遺物

1 区

土こう出土資料

SK01からは時期不明の亀山焼(写真㉗下段左)と14世紀後半～16世紀の土師質小皿(図面28-写真㉘右上段)及び摺鉢(写真㉙上段・左と左から2番目)が出土した。SK03からは、14～15世紀前半の摺鉢(写真㉚中・下)と羽釜の脚(写真㉛右・右から2・3番目)が出土した。

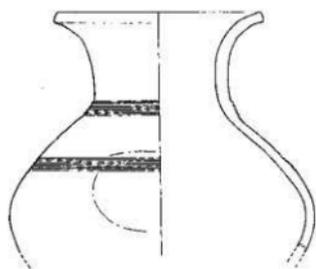
ピット出土資料

SP01からは摺鉢・土師質小皿(写真㉜左・上・中下)が出土した。SP12からは白磁(写真㉝右上)が出土した。SP27からは土師質小皿(写真㉞右下)が出土した。

4. まとめ

調査区全体にわたり、遺構面は現在までの水田耕作により削平されている。1区では、中世の土こうとピットを上面で、下面で弥生時代前期の溝状遺構SD01、SD02、SD03を検出した。1区で検出したSD02とSD03は、昭和56年度調査で検出された「中の池遺跡」の溝状遺構SD8101とSD8105と関連すると考えられる。SD02から配石遺構等の検出はなかったが、中央部が窪むところはSD8101と同様の溝の形となっている。SD03は、底部で黄褐色粘質細砂層を削り出して畝状となっており、中央部は高く、溝縁で階段状となり、柵列を持つことからSD8105の溝とつながるものと思われる。2区では、トレンチの北部と中央部から南端にかけて、河道と推定される溝状遺構を検出した。この溝とT字型に分岐する細い溝が西側にあり、調査区西北端では土こうやピット群が検出されている。3区でも、中世の土こうや弥生時代の溝状遺構を確認した。

調査の結果、「中の池遺跡」の環濠と推定される3本の溝のうち、内側にあたる溝の直径は55～60mあり、楕円形を呈している。また、「中の池遺跡」の環濠推定範囲の外側にも遺構が濃密に所在することから、「中の池遺跡」は広範囲に展開する遺跡であると推定される。



1 壺1



2 壺2

1 区 S D 0 1 出土



3 壺6



4 壺7



5 壺9



6 壺10

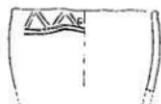
1 区 S D 0 2 出土



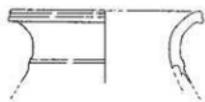
7 壺11



10 壺16



11 壺21



8 壺12



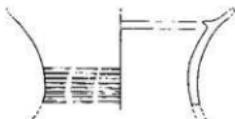
12 壺23



13 壺24



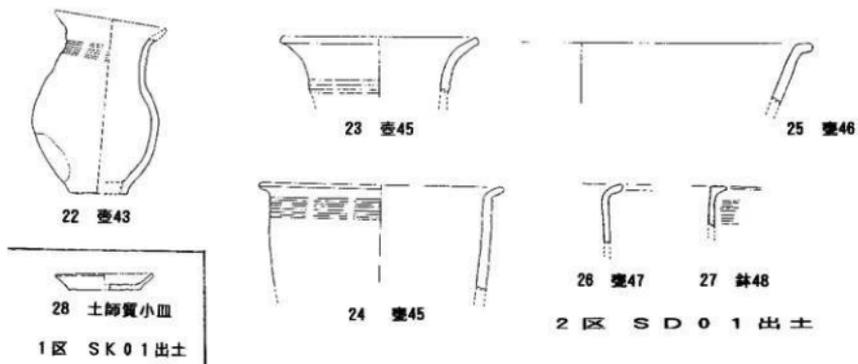
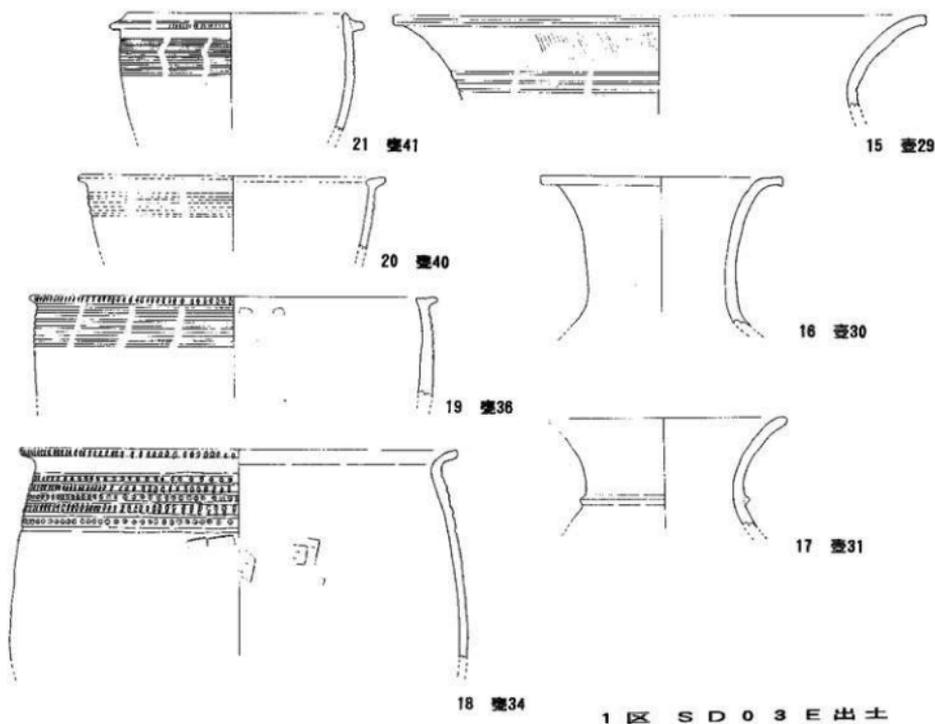
14 浅鉢42



9 壺14

1 区 S D 0 3 W 出土

S=1/4



S=1/4

写 真

(遺構)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①調査前 (南から) | ⑥1区 SD03E (東から) |
| ②1区 中世完掘状況 | ⑦2区 遺構検出状況 |
| ③1区 SD01 (西から) | ⑧3区 遺構検出状況 |
| ④1区 SD02 | ⑨調査終了 |
| ⑤1区 SD03W (西から) | |

(遺物)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ①1区SD01出土 (壺1) | ⑩1区SD03W出土 (甕28) |
| ②1区SD01出土 (壺2・3) | ⑪1区SD03E出土 (壺29・30) |
| ③1区SD01出土 (甕4) | ⑫1区SD03E出土 (壺31) |
| ④1区SD02出土 (壺5・6 甕7~9) | ⑬1区SD03E出土 (壺32阿方式土器・33) |
| ⑤1区SD02出土 (甕10) | ⑭1区SD03E出土 (甕34) |
| ⑥1区SD03W出土 (壺11・12) | ⑮1区SD03E出土 (甕35~39) |
| ⑦1区SD03W出土 (壺13) | ⑯1区SD03E出土 (甕40~41) |
| ⑧1区SD03W出土 (壺14) | ⑰1区縄文土器浅鉢口縁 (浅鉢42) |
| ⑨1区SD03W出土 (壺15~20) | ⑱2区SD01出土 (壺43) |
| ⑩1区SD03W出土 (壺21山形文) | ⑲2区SD01出土 (壺44・甕45・鉢48) |
| ⑪1区SD03W出土 (壺22阿方式土器) | ⑳2区SD01出土 (甕46・47) |
| ⑫1区SD03W出土 (甕23) | ㉑SK01出土遺物 |
| ⑬1区SD03W出土 (甕24) | ㉒SK03出土遺物 |
| ⑭1区SD03W出土 (甕25) | ㉓SP01・12・27出土遺物 |
| ⑮1区SD03W出土 (甕26・27) | |

遺構



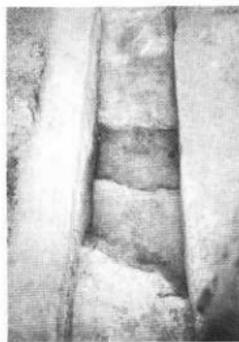
①調査前 (南から)



②1区 中世完掘状況



③1区 SD01 (西から)



④1区 SD02



⑤1区 SD03W (西から)



⑥1区 SD03E (東から)



⑦2区 遺構検出状況



⑧3区 遺構検出状況

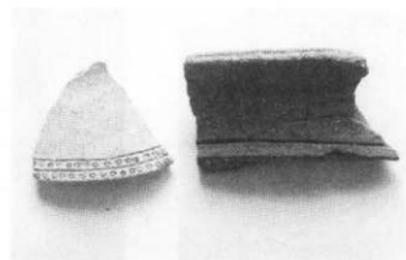


⑨調査終了

遺物



①1区SD01出土(壺1)



②1区SD01出土(壺2・3)



③1区SD01出土(壺4)



④1区SD02出土(壺5・6 甕7~9)



⑤ 1区SD02出土 (甕10)



⑥ 1区SD03W出土 (甕11・12)



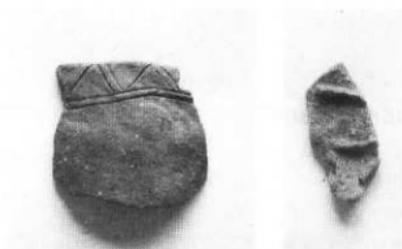
⑦ 1区SD03W出土 (甕13)



⑧ 1区SD03W出土 (甕14)



⑨ 1区SD03W出土 (甕15~20)



⑩ 1区SD03W出土
(甕21山形文)

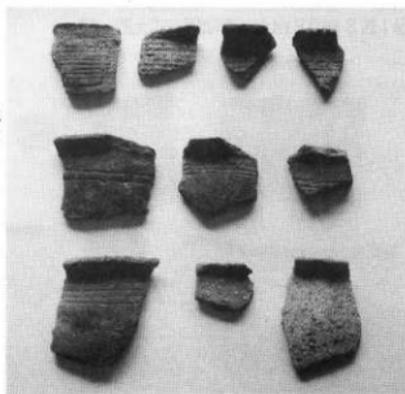
⑪ 1区SD03W出土
(甕22阿方式土器)



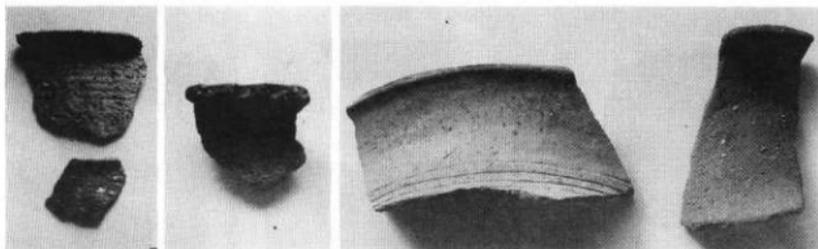
⑫ 1区SD03W出土
(甕23)



⑬ 1区SD03W出土
(甕24)



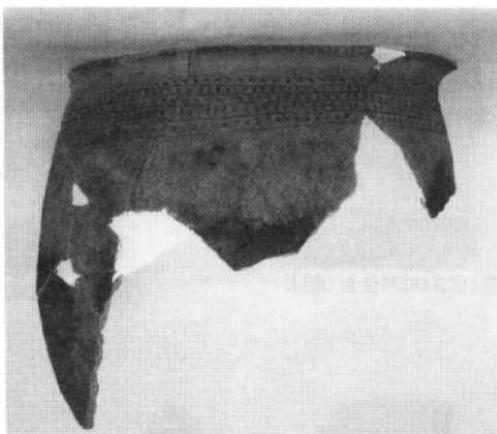
⑭ 1区SD03W出土 (甕25)



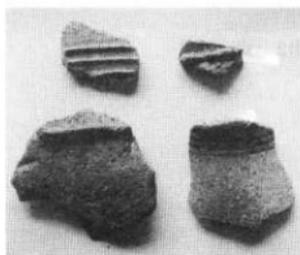
⑮ 1区SD03W出土 (壺26・27) ⑯ 1区SD03W出土 (壺28) ⑰ 1区SD03E出土 (壺29・30)



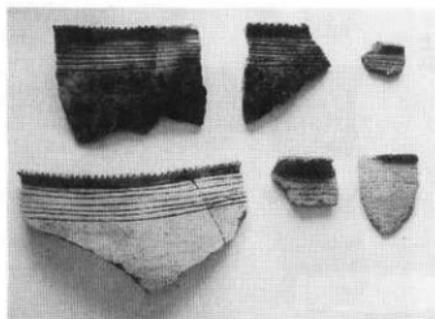
⑱ 1区SD03E出土 (壺31)



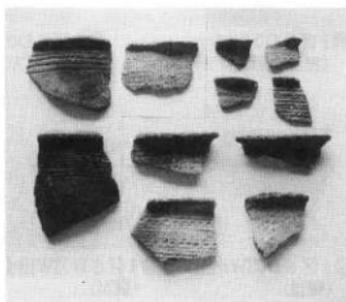
㉑ 1区SD03E出土 (壺34)



㉒ 1区SD03E出土 (壺32阿方式土器・33)



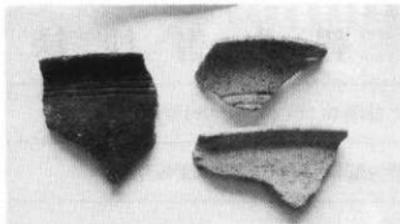
㉓ 1区SD03E出土 (壺35~39)



㉔ 1区SD03E出土 (壺40~41)



㊸1区縄文土器浅鉢口縁
(浅鉢42)



㊸2区SD01出土(壺44・甕45・鉢48)



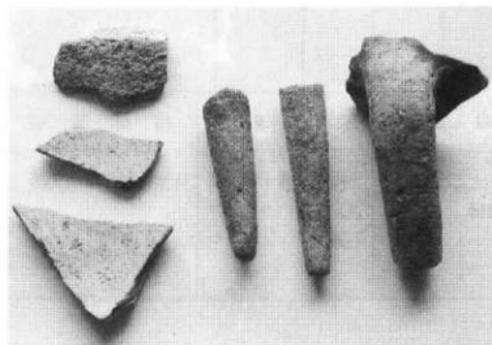
㊸2区SD01出土
(甕46・47)



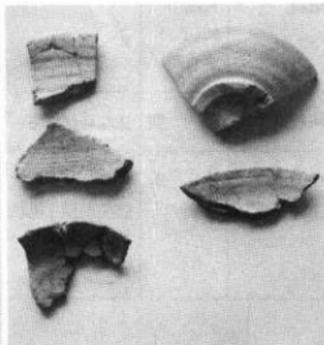
㊸2区SD01出土(壺43)



㊸SK01出土遺物



㊸SK03出土遺物



㊸SP01・12・27出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ふりかひな まるかひな いき ほん(ちゅう)はつ(こう)はく(し)									
書名	平成7年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書									
副書名										
巻次										
シリーズ名										
シリーズ番号										
編著者名	東 信男									
編集機関	丸亀市教育委員会									
所在地	〒763 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号									
発行年月日	西暦1996年3月29日									
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ 市	ー 町	ド 村	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
なかの池 遺跡	香川県 丸亀市 金倉町	3	7	202	00078	34° 15' 44"	133° 47' 15"	19960824 ~ 19960920	240	遺跡確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構		主な遺物		特記事項	
中の池 遺跡	集落	中世 弥生前期 縄文晩期			柱穴・土こう 溝状遺構		土器片(壺・甕・鉢 蓋) 石器		弥生前期の環濠集落	

平成7年度
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成8年 3月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号
発行 丸 亀 市 教 育 委 員 会
印刷 ㈱ 四 国 工 業 写 真